

## 6 伝統文化を次世代に

本市の新たな文化芸術発信拠点である「那覇文化芸術劇場なほ」とが昨年10月に開館しました。文化芸術を通じて人やまちを元気にし、社会包摂型の劇場として、社会課題等の解決の一助となるよう活用してまいります。



本市にゆかりのある琉球舞踊立方の宮城幸子さん、志田房子さんが人間国宝に認定されました。琉球王国時代から脈々と受け継がれてきた伝統芸能が高く評価されたことは大変喜ばしく、琉球舞踊の継承・発展に大きく寄与するものであります。

首里城においては、火災から2年が経過し、今年はいよいよ正殿の本体工事の着手が予定されており、首里城の一日も早い復興を願うとともに、伝統技術を活用した多くの職人の手によって、古より受け継がれてきた息吹が再びもたらされることに、夢や希望が膨らまばかりです。

また、今年新たな伝統工芸発信拠点、「首里染織館 SUKARAI」のオープンが予定されており、新たな拠点は、伝統文化の発信と人材育成にも資するものであり、引き続き支援に努めてまいります。

## 7 先進技術で新時代を拓く

新型コロナウイルスの拡大を契機に、社会全体のデジタル化の機運が高まり、わたしたちの生活を取り巻く環境は過去に類を見ない速さで変化しております。

日本社会においては、これまで大きな課題として提起されてきた人口減少や、少子高齢化に伴う人手不足への対応などがデジタル化により、持続可能な社会の実現に貢献することへの大きな期待が寄せられています。

本市も時代の潮流を捉え、令和4年度は「(仮称)那覇市デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画」を策定いたします。様々な手続きをオンライン化するなど、庁内業務のあらゆる場面にデジタルをフル活用し、利便性や効率化を図り、行政サービスの質の向上にしっかりとつなげてまいります。

行政サービスのデジタル化については、社会全体の機運が高まっている今、スピード感を持ち、庁内一致団結して取組を進めてまいります。



## 8 協働によるまちづくりの更なる推進

多くの皆様方との協働により、市民の心豊かなまちづくりに確かな進展を実感していた矢先、新型コロナウイルスの感染拡大により、地域における市民活動や生涯学習活動などが、制限を余儀なくされました。また、コロナ禍で、社会構造や市民意識の変化による地域でのつながりの希薄化、ライフスタイルや価値観の多様化に伴う課題が見えきました。

課題に向き合っていくには、個人や団体・組織の対応に加えて、関係する複数の団体・組織、行政などと共に取り組む必要があります。多様な主体が、同じ目的のために、互いの特性を活かし、補い合い、影響し合いながら、協力して取り組むことにより、協働によるまちづくりへとつながってまいります。

令和4年度は、様々な課題の解決に市民と協働で取り組むため、そのプロセスを示し、地域の多様な主体による取組を推進する土台として策定した「協働の手引き」も活用し、更なる推進を図ってまいります。

## 9 誰一人取り残さない地域社会の実現に向けて

昨年のノーベル物理学賞に、アメリカ・プリンストン大学の真鍋淑郎博士が選ばれました。二酸化炭素濃度の上昇が、大気や海洋に及ぼす影響を50年以上前から取り組んだ研究、その先見性は、まさに未来のSDGsを見据え、意識を変えることの重要性を示したものでないでしょうか。

現在、企業や団体等において、「脱炭素」や「食品ロス」、「ジェンダー」などに対する活動等で、SDGsの機運が高まってきていることは、大変素晴らしいことだと感じております。

SDGsを更に推進するためには、企業や団体等のみならず、一人ひとりがSDGsをどう向き合い、「自分のこと」として捉え、真鍋博士のように10年、20年先の未来、子や孫の時代のことと考え、取り組むことが大切であると思えます。

そのための本市の役割は、SDGsとすべての施策を関連付けた、第5次那覇市総合計画に沿ったまちづくりを行うことで、「誰一人取り残さない地域社会の実現」につながるものと考えており、しっかりと取組を進めてまいります。

## 令和4年度 主な実施事業



**校区まちづくり協議会支援事業…1,771万9千円**  
協働によるまちづくりの更なる推進に向け、市内全36小学校区において校区まちづくり協議会設立を目指します。



**小禄支所建設整備事業…3億1,396万8千円**  
(仮称)小禄南出張所整備事業…1億5,291万8千円  
「小禄支所」および「(仮称)小禄南出張所」の令和4年度の完成を目指し、工事を進めます。



**子供の貧困緊急対策事業…1億6,115万6千円**  
貧困対策支援員を配置し、適切な支援につなげるとともに、実情に応じた子どもの居場所を設置するなど児童生徒の自立に向け取り組みます。



**新型コロナウイルス感染症ワクチン接種事業…6億6,414万6千円**  
命と健康を守るため、感染状況に応じた対策を柔軟かつ迅速に取り組みます。



**保育施設等オンライン化手続推進事業…616万円**  
保育所の入所等の手続きをオンラインで申請できるように整備し、保護者の利便性向上を図ります。



**那覇市まなびクーポン事業…1,231万千円**  
経済的な理由で学習塾等に通えない子どもたちに、まなびクーポンの提供を継続して実施し、学びの格差解消に取り組みます。



**頑張るマチグラー支援事業…1,310万円**  
アフターコロナを見据え、イベント開催や課題解決等に取り組む商店街に対して、引き続き支援します。



**放置自転車防止対策事業…200万円**  
良好な生活環境の確保と都市美観の維持等を図るため、駅周辺道路を中心に、自転車等の放置防止に取り組みます。



**LRT導入推進検討事業…1,620万円**  
LRTの導入に向けて、多角的な視点から調査・検討を進めるとともに、道路管理者等の関係機関と協議を進めます。



**おくやみコーナー運営事業…521万3千円**  
県内初となる、亡くなられた方に関連するワンストップサービスを導入しました。引き続き、ご遺族の不安や負担の軽減に向け取り組みます。



**(仮称)那覇市DX推進計画策定事業…990万円**  
本市が目指すデジタル化を市民の皆様と共有するため、「(仮称)那覇市デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画」を策定します。



那覇市長 城間 幹子

令和4年2月8日

いっぺりにふえーとびる。

**結びに**  
1972年の復帰の年、私は大学生でした。教師を目指しパスポートを携え県外の大学に進学し、学生生活を過ごすなかで、復帰後の沖縄を支えるためには、人材育成がすべてだと実感したことを昨日のように覚えております。

その後、私は教師として多くの同僚とともに、保護者そして地域社会のトライアングルの様々な響きの中で、互いに手を取り合い、たくさんの子ども達の育ちゆく姿を見守り、関わってきました。

その子ども達が成長し、それぞれの道でまちづくりの主役となり、地域社会の一員となっている姿を見ますと、胸に熱くこみ上げてくるものがございます。

市政運営のバトンを受け、基本理念に掲げた「平和・こども・みらい」あなたとともにの言葉の中には、「人材こそが共通する財産である」という思いが込められています。

「人がまちを創り、社会を創り、世界を創る」、これから本市が、次の100年へと歩んでいく中で、やはりまちづくりの原動力となるのは「人」であります。

これから先に続くまちづくり、人づくりの種まきを行い、芽吹きを育て、輝かしい未来へつなげていくため、令和4年度も私の持つすべてを、全身全霊をかけて、市政運営に臨む決意であります。

市民の皆様並びに議員各位のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます、令和4年度施政方針の結びの言葉といたします。